



ふきのとう

第45号

【発行】
社会福祉法人
秋田県社会福祉事業団

〒010-1412
秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
TEL 018-889-8360 FAX 018-889-8361
HP <http://www.fukinoto.or.jp>
e-mail mail@fukinoto.or.jp



ヨロヨロ 今日フライは春の魚サワラです

【目次】

- P 2 ・ 全国社会福祉事業団大会
・ 第十六回秋田県北部老人総合エリア
「お客様感謝祭」
- P 3〜4 ・ 令和六年度退職者
- P 5 ・ 令和七年度新規採用職員紹介
- P 6 ・ 西目地区グループホームが完成
表彰

★INSTAGRAM随時更新中★
ホームページからも
閲覧できます。
詳細は、コチラから↓



ティラノサウルスレース～秋田県北部老人福祉総合エリア～

第五十七回 全国社会福祉事業団大会の開催

十月十七日から十月十八日にかけて、全国社会福祉事業団協議会が主催、秋田県社会福祉事業団が開催担当として第五十七回全国社会福祉事業団大会を秋田市で開催しました。

「つながり・支え合える地域共生社会へ」という大会テーマのもと、初日は実践報告の後、福祉ジャーナリストの町永俊雄様、藤里町社会福祉協議会会長の菊池まゆみ様にご講演いただきました。その後、全国各地から参加した役員による交流会を行い、大いに絆を深めることができました。

大会二日目は「ICTの導入による業務の効率化」、「強度行動障害を持つ利用者の意思決定支援と実践」の二つのテーマで分科会を開催し、全体会で各分科会の報告を行いました。

今大会には約二五〇名の方にご参加いただき、これからの新しい時代に、事業団が地域福祉の推進の一翼を担うために何ができるのか、どう応えるのかを考える良い機会になり、盛況のうちに閉会となりました。



開会挨拶
全事協 藪本理事長



開会挨拶
関根理事長



2日目 全体会報告

第十六回秋田県北部老人福祉総合エリア「お客様感謝祭」を開催しました

当エリアは二月二十三日（日）にエリア感謝祭を開催致しました。

この感謝祭は、地域貢献や世代間交流の他、地域の賑わい創りを目的としており、沢山の地域住民の方々や関係機関、団体の方々にご協力を頂き、運営をしております。

成章小学校生徒による「成章ソーラン」や地元で人気のコウライザーによるヒーローショー、なまはげ太鼓「恩河」による太鼓パフォーマンスや新しい試みとなる「ティラノサウルスレース」、アクセサリー販売や飲食品を提供する「手作りマルシェ」、職員手作りの豚汁振る舞いや子ども達のみならず、親御さんにも大人気だった「バブルボール体験」、イベントの最後には「餅撒き」を行い、非常に盛りだくさんのイベントで本場に沢山の方々にお越しいただきました。

ご来館頂いた沢山の方々楽しそうな笑顔を見て、職員一同も全力で当日の運営を行い、無事感謝祭を成功させることが出来ました。これからも地域の皆様に愛されるエリアを目指し、また、より一層地域に貢献できるように、様々なイベントを企画して参ります。



コウライザー ヒーローショー



餅撒き



飲食



手作りマルシェ



令和6年度退職者

事務局

事務局長 佐々木 薫



へどうしようもないわたしが歩いてゐる

どちらかといえば好きではない種田山頭火の句には、なぜか怖いくらいの親和性を感じます。子どもの頃はよく「お前はミカン箱で川を流れていたところを拾った」となどと言われたものでしたが、思い返せばここまでいろいろな人に拾われてきたと思います。定年を迎えるにあたり、諸事情により道を違えた先輩や同僚のことも思い出しました。私は事業団職員として全うできることを本当に幸せに思いますし、関わった全ての皆様にも感謝の念に堪えません。かれこれ三十五年、「まだ何も成し得ていないの？」と、どこからか聞こえてきそうですが、ひとまず「この道やいくたくりゆきしわれはけいいく」

北部エリア

所長 堀田 学



月日の流れは早いもので、気づけば還暦を迎えておりました。

思い返せば、事業団に入職した当初は「支援員」として配属されましたが、福祉大学出身でもなく、専門知識も全くない状態でした。しかし、先行きに対する不安よりも、期待感や使命感の方が勝り、バブル景気に沸く世情と相まって、楽しく充実した毎日を過ごしておりました。「先生」という慣れない呼称に、恥ずかしさと戸惑いを感じながらも、利用者さんと共に汗を流して作業を行ったり、旅行を楽しんだりしたことを思うと、隔世の感があります。三十有余年、紆余曲折がありましたが、幸いにもどの赴任先でも上司や同僚に恵まれ、充実した日々を過ごすことができました。若い頃から一緒に仕事をしてきた後輩職員が、管理職や中核として活躍している姿を見ると、感慨深いものがあります。長い間、誠にありがとうございました。

南部エリア

管理者 森井 勝



臨時職員を含めて三十九年間務めさせて頂き、この度、定年退職を迎えることが出来ました。

この間、多くの利用者様と出会い、諸先輩方からの手厚いご指導や同僚との支え合いがあり日々楽しく過ごすごうございました。振り返るとどれもが大切な思い出であり、どんな困難にも皆さんの温かいサポートがあったからこそ、何とか辿り着くことができたと思います。定年を迎えるにあたり、次のステップとして新たな挑戦が始まりますが、これまでの経験を活かして、別の形で社会に貢献できるよう努めて参りたいと思います。また、秋田県社会福祉事業団の益々の発展を応援しています。最後に、これまでのご指導・ご支援に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

南部エリア

上席看護師 小野崎 邦子



昭和六十三年六月、南部エリア開設と同時に事業団職員として採用して頂き、本日無事定年の日を迎えることができました。長かったような短かったような不思議な感慨に浸っています。沢山の尊敬できる上司、先輩、信頼できる同僚に恵まれ、一度も辞めたいと思うことなく日々楽しく仕事をすることができました。また利用者さんには、看ること、聴くことの大切さ、特に長く勤務した南部エリアでは『老いる』ことの意味と『老い方』を教えて頂きました。多くの出会いと別れ、利用者さんとの数えきれないエピソードは、私の心の財産となっています。

私の我儘やご迷惑を受け入れ、支えてくれた職員の皆様には感謝しかありません。本当にありがとうございました。おわりに、ご利用者様のご多幸と秋田県社会福祉事業団の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

令和6年度退職者



南部エリア

総括主査技師 守屋 恵子



事業団で働いて三十五年退職を迎えることになりました。

した。いろいろな事がありました。が、今はすべて良い思い出となり私の宝物です。

勤務している間は、大変充実した日々でいろんな人に支えていただき迷惑もいっぱいかけたと思います。皆様の笑顔や心遣いに励まされ定年を迎えることができました。感謝いたします。本当にありがとうございました。

कोरोー

総括主査 佐藤 明宏



この度、三月三十一日をもって定年退職を迎えることになりました。

定年まで勤めることができたのも皆様のおかげだと思っております。心より感謝申し上げます。

私は三十六年間支援の仕事に携わってきましたが、その間には、楽しい事ばかりではなく辛い事や哀しい事もありました。しかし、今では良い思い出として心の中に残っています。また、多くの人と接する仕事ができ大変満足しています。社会の変化に伴い、福祉の職場においても色々変化が生じてきましたが、人としての心だけは流されないように頑張ってきましたつもりです。最後に、四月からも継続して働くことになりましたので、宜しくお願い申し上げます。

阿桜園

席上養士 藤原 弘美



昭和六十三年六月に南部シルバーエリアに採用していただきました。

以来、多くの先輩と同僚に支えていただき今日を迎えることができました。振り返ると、楽しかったことばかりが思い出されます。食事や行事を通して利用者の皆様と関わりを持ち沢山のことを教えていただきました。この経験を宝物として大事にこれからの人生を過ごしていきたいと思えます。

最後に、利用者のご多幸と事業団のご発展、職員の皆様の活躍を心から願っております。今日まで温かく支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

点字図書館

館長 内藤 司



昭和六十四年一月に採用されてより三十六年余りが過ぎました。

時代は昭和から平成に変わろうとしており、世の中のバブル景気全盛期という時代の大きなうねりとは全く関係せず、採用施設である南部老人福祉総合エリアで右も左もわからず施設内を迷走していた頃が懐かしく思い出されます。措置から契約など福祉制度や情勢が目まぐるしく変化していくなか、諸先輩はじめ同僚・後輩の皆様のお力添えいただきまして、大過なく定年まで勤めることができましたことに深く感謝申し上げます。今後も様々な問題がでてくると思いますが、皆様の創意工夫とチームワークで乗り越えていくことを期待します。最後になりますが、皆様のご健康とご活躍をご祈念申し上げます。

令和七年度新規採用職員紹介 ▼ 事業団職員としての抱負

高清水園

支援課 支援員 今 耀汰



事業団職員として働く中で、大学で培った知識や、大学三年次四年次のソーシャルワーク実習で学んだソーシャルワーカーの専門技術を活用し、事業団やクライアントの役に立てるような職員になれるように、頑張りたいです。

高清水園 管理課 看護師 吉田 紀子



利用者の方々の健康管理を担当させていただきます。コミュニケーションを大切に、信頼関係を築くことが目標です。利用者の皆さんが、健康で、安心して生活ができるように、お手伝いさせていただきます。

秋田県心身障害者コロニー管理課 技師 佐藤 幸



利用者の方々の安全な生活を送れるよう職員の方々と協力して支援していく事を目標にします。また、職員として関わる研修等へ積極的に参加し、資格等も取得していきたいと思

秋田県心身障害者コロニー創生支援課 支援員 浅利 奏太



利用者の方々が安心して豊かな生活を送れるよう、信頼関係を大切に支援していきたいと思っています。社会人一年目で戸惑うことも多いと思いますが、日々成長できるように一杯努めてまいりますので、よろしくお願ひします。

秋田県心身障害者コロニー 赤光支援課 支援員 柴田 あずさ



正職員として事業団内の仕組みや仕事内容を覚えて頑張っています。新しい場所でも利用者さんの名前や特徴を早く覚え信頼関係を築けるよう日々のコミュニケーションを大切に、様子を見逃さないようにしていきたいです。これからよろしくお願ひします。

秋田県心身障害者コロニー 白光支援課 支援員 鈴木 梨那



利用者の方々がその人らしく生活出来るよう一人ひとりにあったサポートを心掛けていきます。研修等に積極的に参加し、常に向上心を持って笑顔で仕事に励みます。ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

秋田県心身障害者コロニー 白光支援課 支援員 上田 啓丞



利用者の方々が、その家族に寄り添い、安心感や信頼を得られるようなケアを提供することを目標に頑張りたいです。そのため、分からないことがあったら上司に相談したり、基本的な技術を身につけたいと思

秋田県心身障害者コロニー 銀杏支援課 支援員 本津 利彦



利用者の方々に寄り添い、信頼される支援員になれるように努めてまいります。また、利用者の皆様が豊かな安心して生活ができるように研修等に積極的に、自分自身のスキルアップを図っていききたいと思

秋田県心身障害者コロニー 銀杏支援課 支援員 古関 彩子



秋田県社会福祉事業団の基本理念に基づき、利用者の方々が笑顔で充実した生活を送れるよう努めてまいります。日々、利用者の方々と接する中で利用者の方々に教えて頂きながら成長していきたいと思

秋田県心身障害者コロニー 銀杏支援課 支援員 高橋 唯



利用者様が安心・安全に過ごしていただけるように丁寧な支援を目指したいと思

秋田県心身障害者コロニー 診療所 看護師 土田 慶太



利用者一人ひとりに寄り添って生活できる環境を提供できるように努めます。笑顔と思いをやりながら、学びと経験を積みながら、成長できるように取り組んでいきたいと思

由利本荘地域生活支援センター 管理支援課 支援員 小野 広道



利用者の方々が家族の気持ちに寄り添い、安心して暮らす時間を過ごせるよう頑張ります。日々の学びを大切に、一日でも早く皆様のお力になれるよう努めます。どうぞよろしくお願ひいたします。

由利本荘地域生活支援センター 相談支援課 支援員 五十嵐 美緒



一人一人の利用者様と向き合い、事業団職員としての自覚を忘れず業務にあたりたいです。日々試行錯誤しながら、利用者様にとって最も豊かな生活に繋がるような支援を目標に頑張りたいです。

阿校園 管理課 看護師 小原 明美



利用者さんと一緒に過ごさす毎日が穏やかで安心したものであるように、健康管理に努めたいと思

阿校園 支援課 支援員 高橋 翔



「自分もこの社会の一員として、この社会に貢献したい」と思

阿校園 支援課 支援員 佐々木 栄大



利用者の方々の皆様が、職員の方々と信頼関係を築き、「安心して」環境作りに努めてまいります。皆様から頼りにしていただけるように一杯がんばります。よろしくお願ひ致します。

阿校園 管理課 管理栄養士 高橋 彩希



情報収集に努め、いち早く利用者さんの顔と名前を覚えて、ひとりひとりに寄り添ったケアを行いたいと思います。また、食べたいと思

やまはと園 支援課 事務員 菅原 大地



四月より、やまはと園で働くことになりました。社会人としての責任をしっかりと果たし、利用者の方々の安全な生活を大事にしたいと思

秋田県心身障害者コロニー
西目地区グループホームが完成しました

令和六年四月から建設して西目地区グループホームおよびサポートセンターが完成し、閑静な住宅街の敷地に男性用ホーム「まつかぜ」と「やすらぎ」、女性用ホーム「そよかぜ」が移転しました。平家建てグループホーム二棟と、一階をホーム、二階をサポートセンターとした建物一棟で、この三棟は法人所有の専用建物となっております。

これまで西目地区のグループホームのほとんどは一般住宅を賃借していたため、利用者さんの高齢化などにもない、生活しやすい建物や設備が望まれておりました。

この度の新規建設では三棟とも住居部分は一階とし、玄関スロープから段差なく居室まで移動できます。また、車椅子対応のトイレ、介助用ユニットバスの設置など、身体状況の変化に対応できる設備となっております。共有スペースを開放的な造りとし、居室を出るとリビングやサニタリースペースへ仕切りなく移動できます。シルバーカーの利用も容易になりました。

サポートセンターは、そよかぜの二階部分に移転しました。支援員や看護師がそばにいることで、皆さんの安心につながっています。設備としては、利用者さんの面談や余暇活動に活用しやすいように、二階のほかに一階にも面談室を設けました。また、サポートセンター内に非常用物品や感染症対策物品を一括管理できるように物品庫を設けました。

一月二十九、三十日に男性利用者さんが、二月四、五日に女性利用者さんが引っ越ししました。皆さんから「あつたげくて、たいしたいい」「広くてきれいな部屋でありがとう」という言葉がありました。

今回の引っ越しにもなつて、何人かの利用者さんにもホームの変更をお願いしましたが、それぞれに新しいホームで仲間や世話人さんと安心安全な生活を送っていたのだと思います。



居室入口



そよかぜ玄関と1階面談室



外観~手前からまつかぜやすらぎそよかぜ



洗面



浴室



トイレ(右は車椅子対応)



キッチン

☆ 表彰 ☆

○全国社会福祉協議会会長表彰

(福祉施設功労)

高清水園

園長 齊藤礼彦

阿桜園

課長 藤井誠子

(永年勤続功労)

高清水園

課長 堀田由香

秋田県心身障害者コロニー

総括主査 佐藤明宏

秋田県南部老人福祉総合エリア

上席看護師 小野崎邦子

阿桜園

主査 松川裕人

受賞おめでとうございました。

※記載情報は令和六年度時点となっております。あらかじめご了承ください。

